2017 報恩講作品展示

石蕗の花　いくつ数えた波枕　これからいくつ数えて生きる
餅をつく　音懐かしく亡き母の　面影ゆれて　睫毛ぬらしぬ
抜けそうな　空に輝く魂の　光が踊る　温ったか仏
どん底の　底の底から真実の　命が見えた　南無阿弥陀仏
御仏の　命賜わり生きている　我人生を　いかにして生く　　田端 明さん

無量寿会報恩講法要　これは何と読みますか？

「余命」ヨメイ、ヨメョウ？一般にはヨメイと言いますがこれは漢音読みで、ヨミョウといえば呉音読みです。仏教では呉音で読むことが多いので、「男女」ダンジョとは読まず、ナンニョと読みます。今では平均寿命が男性 81 歳、女性では 87 歳だそうですが、80 歳の方の平均余命男性では 9 年、女性の方は 12 年だそうです。あくまで平均ですが、でも終えていくいのちです。その後はどうされますか？お浄土に往くことが決まっているのです。誰かがお浄土に生まれると蓮の華が開くといわれます。それもお念仏を称えるとお浄土に指定席が出来ていますからもう安心です。「阿弥陀さまのご本願、お念仏、これがあるから生きていける、死んでいくことができる、別れていくことができる。そう言い切れる人生を歩みたいと、私は今頃つくづくそう思います。」山口県の川越さんとおっしゃる伝道院の同期で、よく善覚寺にも布教に来られた先生でした。ご病気で余命いくばくもない中、味わいを語られた尊い言葉をご紹介、お話くださいました。(小林先生ご法話より)

お寺に集まって報恩講準備

久しぶりに子どもたちの声がかえってきました。報恩講の準備のお手伝いを兼ねて、「お寺で晩ごはん」伊勢うどん会をもちました。

夕方 5 時「夕焼けこやけ」のチャイムとともに鐘を撞きます。おつとめをして、みんなで写真の台紙づくり！「何にする～？」「これで決まり！」「まだきまらへん～～」様々な声が響き渡りました。何とかできあがって、やっと夜ご飯。伊勢うどんでお腹いっぱいになりました。１年生から中学校１年生まで年齢もバラバラ、話の話題もバラバラ。でもバラバラでもいいのです。あなたはあなたでいいのですと、阿弥陀さまは私たちのいのちをご覧くださっています。「みんなちがってみんないい。」と浄土真宗のおみのりにお育てを受けた金子みすゞさんはうたっていましたね。今年も報恩講の夜は子どもたちと一緒におみのりに合わせていただきましょう。

仏教壮年会名古屋へ

晩秋の 11 月 4 日仏教壮年 1 日研修で名古屋に向かいました。今年 6 月完成公開された名古屋城本丸御殿をめざして、観光客多勢の中、並びながら会話に花咲かせましたが、思ったよりスムーズに入れることが出来ました。さすがに初代尾張藩主、家康の 9 男義直の住まい、後に家光の上洛時の宿となったといわれる絢爛豪華な内装にビックリ、来た甲斐がありましたね。昼食後名古屋別院への参拝。木村さんから別院の沿革など、聞かせて頂きました。長島一向一揆(石山合戦)後信長との和解した願証寺が分かれ、江戸時代名古屋御坊として名古屋城築城とともに今の門前町に移転したそうです。やがて 17 間四面の本堂も建立されたそうですが、名古屋城同然戦火に焼かれ、昭和 47 年再建されたとのこと。

参拝後、大須演芸場での楽しいひと時を過ごし、家路に着きました。知っているようで以外に聞き流していた事にであえた１日でした。

いよいよ北海道は初冬の季節を迎えましたが、９月６日に起きた胆振東部地震の余震が未だに続いて居ます。その地震により昭和６０年に建立した、我が家のお墓が倒壊し、再建立には多額の費用が必要で、再建立は残念ながら来春になる予定で心が痛みます。ところで、昭和に生まれ、平成に生きて無事に会社勤めを終え、現在は、娘、息子の行く末を只々見守り、花を愛で心静かに仏壇に向かい手を合わす日々を過ごさせて頂いて居ます。昭和、平成、只有り難うございました。

平成３０年１１月１０日

北海道
大島義勝さん

平成最後の秋のこと

■働き尽くめの帰らぬ七十数年
悲しい想い出、嬉しい想い出
愛する両親と姉を失った失意
心優しい妻と娘・息子に感謝

■お茶を頂く小春日和の昼下り
舞い散る花びらに心が安らぐ
寄り添う妻と何気なく過ごす
心落ち着く日々に手を合わす

■己を変え過去の事は忘れよう
優しい父母に頂いた心大切に
厳しい実社会へと飛び立った
娘・息子を唯々心安く見守る

■アルバムの幼児は笑って居る
過去を笑える事に感謝しよう
平穏に生きた生きて来た証し
平成最後の秋を迎え感謝する

朝倉市　森田瑛子さん

七色の
柿の落ち葉に　和菓子もる
茶人の母の　風流にして

熊野への
古道しるす　石柱あり
三又路に立つ　小さな灯籠

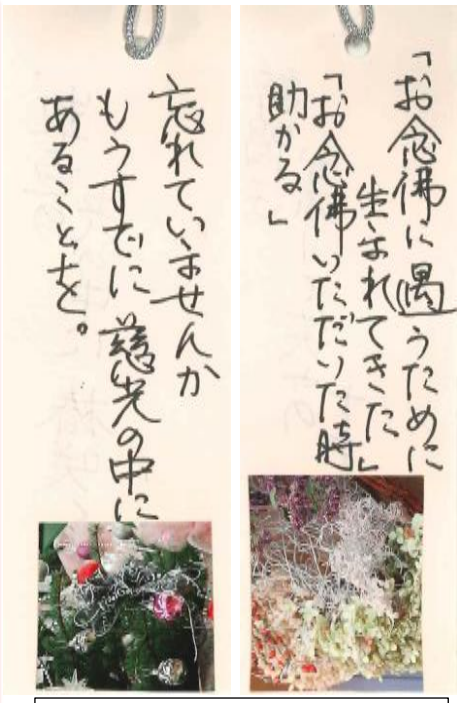
木枯らしが
吹く本郷は　学の町
銀杏の黄葉しきつめており

東京　小笠原孝枝さん

師走の句

茶の花のほつほつ咲くやつつがなき
錦秋や日鏡をふいて深呼吸
欠伸せし頃の涙や秋も逝く
郵便のことりと音す菊日和
山茶花に揺らぐ夕日や暮早し
一本つつ冬木照りつつ野の起伏
ピカピカに包丁を研ぎ年用意

合掌
落合登代子



札幌市大島光子さん

野辺の草　田おもの稲の　露ごとに
御徳もうつる　月のまどかさ

野田観音　智圓寺　山口玉照さん

今年も押し詰まってまいりました。慈光に照らされ、有縁の皆様に支えられて、たよりを発刊させていただけました事、お読みくださいました事、誠に有難うございました。また、来年も、お育ていただきますことどうぞよろしくお願い申し上げます。朝夕冷たくなってまいりました、くれぐれもお身体にはご用心ください。南無　拝